

平成 28 年度の教育活動等に対する学校評価書

平成 29 年 3 月 10 日

学校法人富士学園 静岡県富士見中学校・高等学校

1. 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

- ① 「学習活動と部活動の充実」 ② 「生徒の主体性の育成」 ③ 「学校の独自性の追求」

「新 5 カ年計画」（平成 20 年度～平成 24 年度）の理念を踏まえ、生徒・保護者が満足し、教師一人ひとりが働きがいがあり、5 年後の急減期に地域で選ばれるような学校を目指す「第 3 期 5 カ年計画」（平成 25 年度～平成 29 年度）の推進

2. 自己評価とそれに対する学校関係者評価

（※評価点は、A（十分に成果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）、D（成果がなかった）の数値で表すこと。）

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
学習指導	・入学した生徒が学力を向上させ、希望の進路を実現できる学校づくり	・特進コースⅠ類:毎日の補充授業 ・火・木曜日WS実施 ・夜間学習の実施 ・特進コースⅡ類ゼミ及び進学コースゼミの実施 ・模擬試験(年2回)の受験 ・朝補習(毎日、希望者) ・夏・冬休み補習・不振者指導 ・中学・高校の教科シラバス作成	A	・長期休業の活用で、不振教科や苦手教科の克服 ・ウィクリースタディーの実施指導と評価の一本化 ・特進コースⅡ類ゼミを毎週月曜日に実施、年2回の模擬試験で勉強と部活を両立させ大学進学を目指す。	A	・放課後などに生徒が気軽に質問できる教員の体制ができていることが良い。 ・英語の富士見といわれるぐらい熱心に、英語に取り組んでいることのPRが必要ではないか。
生徒指導	・生徒一人ひとりが、問題や課題、将来の目標を見据え、自らも考え、工夫し、行動し、達成感を得ることができる学校づくり	・個人面接(4月) ・月1回の頭髪、服装指導 ・携帯電話マナー講座 ・スクールバス指導(4月・2月) ・部活動・委員会と連携したあいさつ運動	A	・排除の理論から学習に目を向ける指導へと共通理解の上での指導の徹底	A	・富士見高校の生徒の素晴らしいところは、あいさつをしっかりとしてくれるところ、恥ずかしい年齢でありながら、あいさつの習慣がしっかりと根付いているのは、家庭教育、学校教育の一つの成果の表れだと感じる。
進路指導	・入学した生徒が学力を向上させ、希望の進路を実現できる学校づくり	・進路の手引き配布(全生徒) ・大学企業見学(2年生) ・大学見学(1年生) ・進路ガイダンス(1・3年生) ・7・12月に進路面接(1・2年生) ・7・8月に進路面接(3年生)	A	・センター試験で合格できる取り組みと、きめ細やかな進路指導 ・国公立大学合格22名	A	・運動部で推薦により国公立に入った生徒もおり、一番大切なことはやり遂げること、やり抜く力、それを育てられるような学校づくりが評価を上げる。
健康安全指導	・欠席、遅刻が少ない学校 ・安全指導や防災計画が整備されている学校 ・危機管理マニュアルが作成・活用されている学校	・交通安全教室(4月)・通学路指導(4月5月2月) ・防災訓練(5月・9月) ・地震避難訓練・津波避難訓練 ・防災講座11月・救急法講習 ・薬学講座7月 ・思春期講座12月	B	・朝、登校時の通学路指導 ・日常生活の中で声掛けと登校指導の徹底 ・外部団体との連携強化	A	・アンケート内容から教員がきめ細かく生徒を把握している努力が感じられる。
組織運営	・中学校を併設する学校	・H26.4 中学校開校 ・中学入試広報課設置 ・中学校説明会・体験入学(全5回)	B	・広報活動の内容検討による応募者の増加を図る。 ・個別相談の充実 ・受験者数の増加	B	・私立校ならではの先生方の熱意がもっと伝わればよい。
保護者、地域住民等との連携	・保護者や地域住民への情報提供を発信することで、本校の教育活動への理解を深める。 ・公開授業、学校行事に多くの保護者や地域の人たちが参加や参観をする機会を設ける。	・学校だより(年4回発行) ・富士見高通信(年5回発行) ・富士見中通信 ・富士見祭6月(保護者・地域) ・公開授業(11月)・HPに掲載	A	・中学生による見学会の実施 ・中学生1日体験入学に地域保護者などの参観を促す。 ・学校だより、富士見高通信ホームページ等で情報を発信	A	・保護者・生徒の学校評価アンケートの集計結果により、各教科で来年度への方策検討の機運を期待する。
施設・設備	・体育施設の充実と部活動の活性化 ・学校生活環境整備 ・併設中学校の施設整備	・第1体育館 24年7月完成 ・グラウンド全面改修 27年5月完成 ・第2棟校舎トイレ改修(洋式・ウォシュレット) ・電子黒板の導入	A	・学習環境整備及び部活動活性化のため施設の充実を図る。 ・併設中学校の施設充実 ・校内全トイレの洋式、ウォシュレットの設置を完了	A	・スクールバスなど学業以外の部分で、他校に生徒が行ってしまうことを防ぐ工夫は必要である。
その他の意見				・アンケート結果から教員がきめ細かく把握している努力が感じられる。 ・富士見高校の進学実績がだんだん上がってきているが、外部からの評価をもらう工夫が大切ではないか。 ・アンケート結果に良い結果が出ており、本校生徒は明るく素直な生徒がそろっていると感じられる。		

今後に向けての学校の考え（学校関係者評価を受けて）

文部科学省が進めている高大接続改革の動向を注視しつつ、高校のみならず中学校においても、次期学習指導要領が目指す学力観を視野に入れながら、教育活動を展開し、これからの変化の激しい時代を生きていくための基盤となる資質や能力の育成を図る。

中学、高校とも、引き続き、これまで実施してきた教育活動等の成果や課題を基に、生徒の実態に合わせて教育活動の内容を工夫するとともに、円滑かつ効率的な運営を図る。また、各種外部情報の把握に努め、広い視野から学校改革を進める。